

知温
新故



熊野町文化財のしおり

はじめに

私たちのふるさと熊野町は広島市の東方海拔230mの高台にあり、四方を山に囲まれた盆地から、北東に瀬野川、南西に二河川、東に黒瀬川の源流が流れ出ており、昔、中央部に「鶴ヶ沢」と呼ばれる沼沢地帯があつて、私たちの祖先は古くからその周辺に住み継いできました。

その生活の証である遺跡が町内のあちこちに存在し、数々の城郭跡や神社・仏閣がその栄えた時代を語り、あるいは伝説の残る岩や地名、墓碑などが当時の人々の託した思いを私たちにいかまを見せてくれます。さらに、ふるさと熊野を語る時、まっ先にあげるべき筆づくりについても、祖先が作りあげてきた伝統とともに貴重な資料が数多く残されています。これらはみな過ぎし日の熊野を語ってくれる大切な証人なのです。

このような先人の遺跡や文化遺産を保護し、次代に継承していくことが、現代を生きる私たちの責務であると考えます。祖先によりたゆみなく続けられてきた生活の営み、信仰の祈り、産業への情熱、それらは近代化あるいは合理化の名のもとに破壊されるべきものではありません。私たちはこれら文化遺産を熊野町の財産と捉え、調査・保護・継承に努めていきたいと思ひます。

まだまだ現状では、十分な調査がなされているとは言い難い部分もあります。それだけに今後の研究調査に期待をかけるとともに、本書が少しでも文化遺産を知るよすがとなり、みなさんに興味を持っていただけるきっかけとなれば幸いに思ひます。

今後多方面の方々より、ご教示、ご指導を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

熊野町教育委員会
熊野町郷土史研究会

文化財について

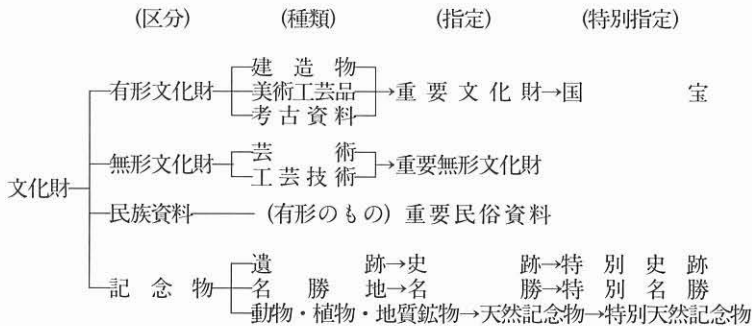
文化財とは、文化的遺産ということですが、具体的には、一体どのようなものをいうのでしょうか。

一般には、歴史上の遺跡とか、建物であるとか、美術工芸品のような形のあるものや、伝統的な芸能や工芸技術のように、わざによって伝承されてきたもの、あるいは、衣食住のような日常的な慣習やその用具なども含まれます。

もちろん、文化財と叫ぶからには、それらが歴史上、芸術上、学術上等の何らかの文化的な価値を持ち、またこのようにいろいろな種類のものがありますが、次のように分類して考えられます。

文化財の区分

1. **有形文化財**……建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他で、歴史上又は芸術上価値の高いもの及び考古資料。
2. **無形文化財**……演劇、音楽、工芸技術その他で歴史上又芸術上価値の高いもの。
3. **民俗資料**……衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習及びこれに用いられる衣服、器具、家屋その他で国民生活の推移の理解に欠くことのできなもの。
4. **記念物**……貝塚、古墳、城跡、旧宅その他の遺跡。庭園橋りょう、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地。動物、植物及び地質鉱物等で歴史上、学術上、芸術上価値の高いもの。



目次

熊野町郷土館	1	■
筆の町熊野	3	■
熊野町指定重要文化財	5	■
熊野町指定天然記念物	9	■
熊野町の名水	13	■
城跡・遺跡	15	■
神社・仏閣	19	■
古墓・記念碑・伝説の岩	31	■
埋蔵文化財	39	■
由来のある地名	43	■
くまの文化財めぐり	46	■

熊野町郷土館

くまのちようきようどかん

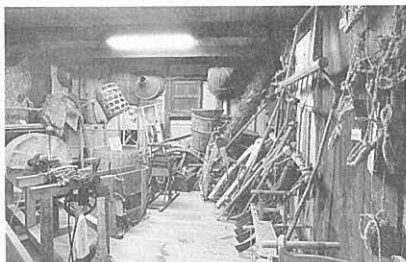
熊野町郷土館

●所在地 熊野町中溝区字上ノ垣内

筆といえば熊野を思い、熊野といえば筆を思う。熊野筆の歴史は、今から約150年前、先覚者が製筆技術を伝えたことに始まります。以後、私たちの祖先は筆作りに励み、今日では全国生産量の約8割を生産しています。また、書家の来遊も多く町内に名跡も数多く所蔵されています。

私たちは、筆の都と呼ばれる郷土を誇りとし、祖先の生活、産業、文化を伝える品、筆と書道文化に関する品等を保存





展示し、後世に伝えるとともに広く社会に紹介したいと考え、市の中心部にあった造り酒屋を譲り受け、昭和53年に熊野町郷土館として開館しました。



〈展示内容〉

●筆関係（1階）

全国生産量の約8割をしめる熊野筆のいろいろを展示。

[各種毛筆] (羊毛筆・豪毛筆・鳥毛筆・わら筆等)

[画筆]

[化粧筆]

[毛筆の原料]

[筆製筆用具]

[筆間屋・筆行商用具]

●生活・生産用具（1階）

祖先が長い年月とその風土の中で、創り出した生活のにおいのする民具や、農耕具を中心とした生産用具を保存・展示。

●考古関係（1階）

町内各地の遺跡から出土した石器類や土器類を展示。

●書道関係（2階）

昔から現在までの書作品や、手本・硯・墨・印材・筆の名品や珍品を展示。

[書作品]

[書道用具]

[書道手本]

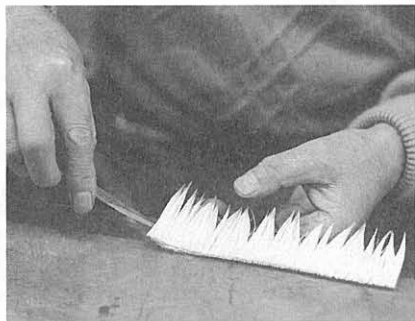
●古文書・古書（2階）

郷土の歴史を伝える寺・神社・庄屋その他の民家に伝えられた、古文書類を展示。



筆の町 熊野

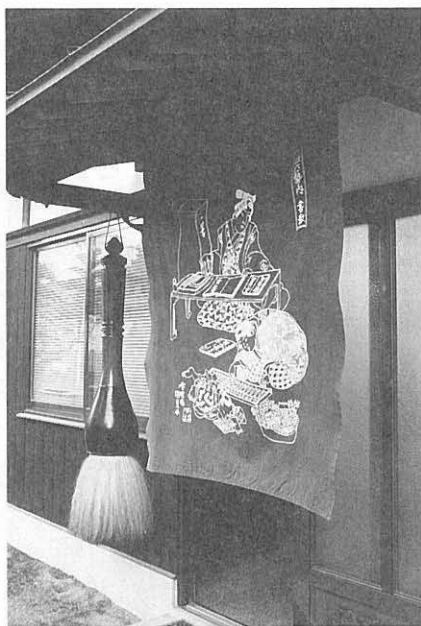
筆にたぐす
伝統の技と心



熊野町の春は黄色い菜の花とうす紫色のれんげ草につつまれ、秋は金色の穂波が揺れて、赤く熟れた柿の実が田園に彩りを添えます。この美しい郷土に、私たちの祖先は筆づくりの技術と伝統を大切に育んできました。

熊野に筆づくりが伝えられたのは、今から約150年前。農業の他に産業のなかった当時は、多くの人が農閑期には紀州や吉野へ出稼ぎに行き、働いて得た賃金を筆や墨に変え、行商をしながら熊野に帰ってくる習慣でした。そこに、佐々木為次、井上治平、音丸常太により、筆づくりが新しい産業として伝えられたのです。筆づくりは副業に適し、よい収入になるため、村内に広まりました。

筆は「七十三度も変わる」と歌われるほど、人の手が加わって出来上がる製品です。そのため、単純な工程ながら、つ



くる人の手の調子と微妙な心持ちが、筆の出来を大きく左右します。筆の生命はまさに人の手から生み出されるといってもよいでしょう。機械化が進む現代にあって、筆は私たちの祖先が残してくれた人の手の温もりを伝える財産なのです。

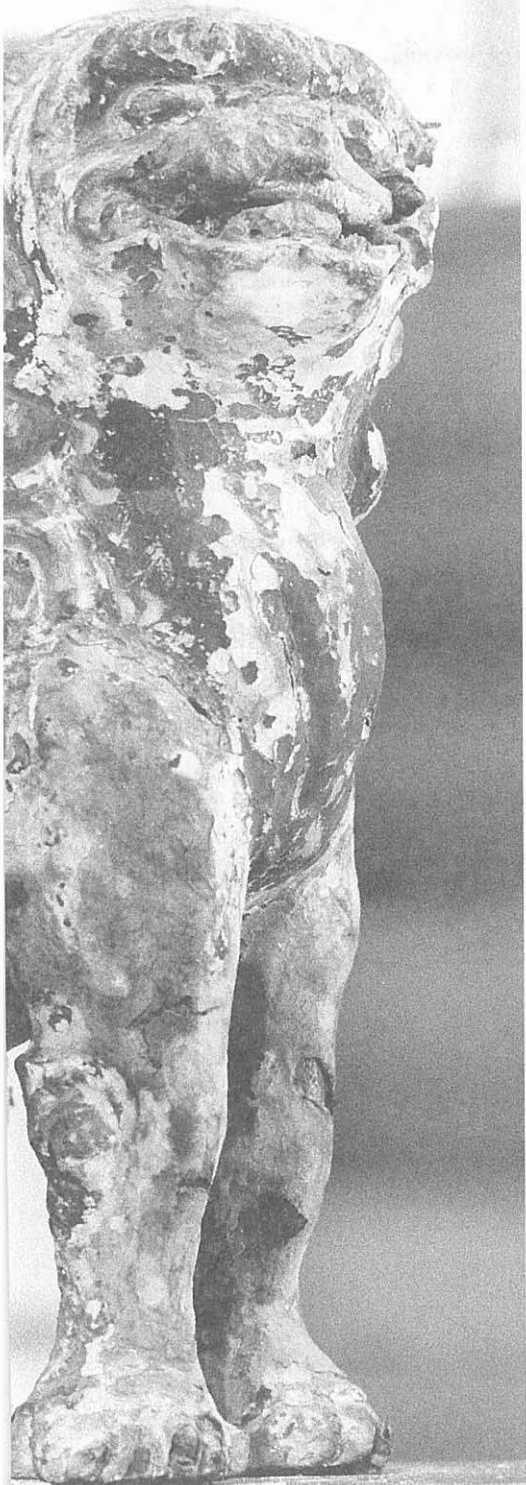
そして、町全体が筆づくりに関わり、常に研究と努力を重ねてきた結果、熊野は日本一の筆の町となりました。現在は全国生産量の約8割を製造し、種類も毛筆から画筆、化粧筆など豊富で、日本はもとより海外にも輸出され、その質の高さが評価されています。

美しい郷土で、筆を愛する人たちの温かい手が育てた熊野筆は、県下初の、国の伝統工芸品に指定されています。

熊野町指定重要文化財

時間と越え
歴史と見てきた





こまいぬ
指定第一号 狛犬

- 指定 昭和62年10月1日
- 所在地 熊野町新宮区榊森神社内

狛犬は神社の境内に魔除けとして安置される、獅子の姿をした像です。起源はインドともペルシアともいわれ、中国大陸（唐・高麗）を経て日本に伝来したものとされています。雌雄、あるいは呵咩一対となっており、古いものほど獅子に近い姿をしているといわれます。

榊森神社の一対の狛犬は、木彫寄木造りに彩色が施されており、室町時代後期の作と推定されています。銘はなく、高さ40cmほどの小型のものながら、前足や胸の堂々とした張り具合や猛々しい表情は、見る人に威厳を感じさせます。町指定重要文化財第一号にふさわしい貴重で見事な文化財といえるでしょう。

指定第二号

あきのくにあなんぐんくまのむらけんちちよう

安芸国安南郡熊野村検地帳 2冊

- 指定 昭和62年10月1日
- 所在地 広島県立文書館

慶長6年(1601年)十一月の福島氏検地帳です。太閤検地では、検地の基準である田畑の位置付けが一般に上中下、下々の四段階となっています。この検地帳では、田畑屋敷が一筆ごとに上々から下々まで十ないし十二等級に細分化されており、検地の結果をより詳しく知ることができます。保存状態もよく、当時の熊野の様子を知るうえで、また、研究上でも大変貴重な資料です。



現在は広島県立文書館に保存されています。

おだけしやそう
指定第三号 織田家社倉

- 指定 昭和64年1月6日
- 所在地 熊野町川角区

社倉とは、飢饉に備えて穀物を蓄えておくために、藩が建てた倉のことです。広島では矢野村が他村にさきがけてこれを行い、実際に飢饉の年にも被害を受けずに済みました。これに藩が目し、制度化して全藩で実施しました。

社倉に蓄えられたのは、主に麦でした。

麦は乾燥や虫害に強く、年貢米と区別がしやすく、混乱が少なかったからだという事です。

熊野にある社倉は、寛政2年(1790年)押込村と同時に発起したものと伝えられ、土蔵造り二階建て、現存するものでは県下最古のものといわれています。





指定第四号 いわ かんのだう まがいぶつ
**ゆるぎ岩、観音堂、磨崖仏を
 含む一帯**

- 指定 平成元年12月1日
- 所在地 熊野町中溝区字観音平

ゆるぎ岩は長さ5尺高さ7尺の大岩で、微妙なバランスで重なった岩を、昔は大人が片手でゆり動かせたといします。

ゆるぎ観音は、慶応年間に水木嘉右衛門が、住民から浄財を集めて建立した観音堂で、当時から今日まで多くの参詣者でにぎわっています。

磨崖仏は、水木嘉右衛門の発願で、明治初年から一体ずつ刻まれたものです。西国三十三観音に倣った三十三体に、番外の三体を加えた三十六体の磨崖仏が大正初期に完成しました。苔むして様々な表情を浮かべた磨崖仏は、信仰の地にふさわしい静寂の中にたたずんでいます。

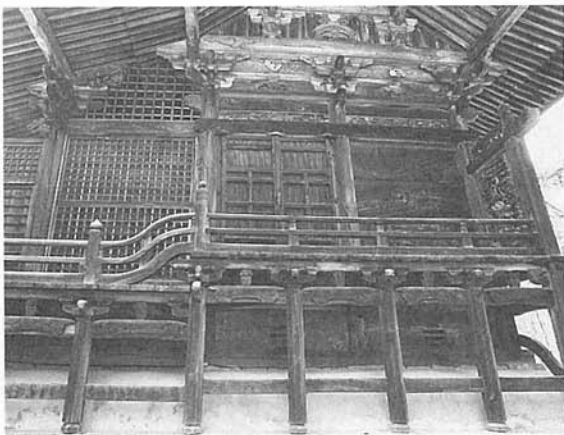
さかきやまじんじやしんでん
 指定第五号 **榊山神社神殿**

- 指定 平成4年8月20日
- 所在地 熊野町中溝区字八幡山

榊山神社は、明治の初めまでは大宮八幡宮とよばれた神社で、承平3年(933年)、福岡の宇佐八幡宮より勧請して創建されたと伝えられます。

重要文化財に指定された神殿は、三間社流造りの銅板ぶきで、江戸時代中期の享保6年(1721年)に松平安芸守吉長の許可を得て同9年11月に3年6ヵ月を費やして建立されたものです。

建物の大きさは通常の神社建築の2.6倍の面積と4倍の体積を持つ、わが国でも最大級の規模を誇る秀麗な建築物です。また、外陣葎戸上の竜の彫刻や、内陣欄



間に彫られた菊と鳳凰に見られるように、装飾も華麗です。広島県における本格的な近世社寺建築の初期例として、貴重な文化財です。

熊野町指定天然記念物



つよびも残し
自然の名作

1. イチョウ [イチョウ科]

- 所在地 熊野町中溝区字宮ノ前光教坊境内
- 根回 6.8m ●胸高周囲 4.4m ●樹高 26m

美しい金色に紅葉するイチョウは、遠くからも目につきやすく、神社・寺院の境内に、また街路樹として植えられてきた馴染みの深い樹木です。

光教坊の境内の大イチョウは、筆まつりの歌にも「秋の雨さえ／サッコリヤサ／

光教坊の銀杏は／黄金交じりの色に降る」と歌われた巨木で、いくつにも枝分かれした幹が、天を仰ぐように伸びています。幹からはいくつもの乳柱(乳房状の突起)が垂れ下がっている「乳下りイチョウ」と呼ばれるものです。乳柱は幹の栄養過剰によって発生するといわれ、そのため、乳不足の婦人に効用があると言い伝えるところもあります。



2. モッコク [ツバキ科]

- 所在地 熊野町中溝区字宮ノ前光教坊境内
- 根回 1.5m ●胸高周囲 1.5m ●樹高 10m

- 所在地 熊野町出来区字大年原大歳神社境内
- 根回 1.7m ●胸高周囲 1.55m ●樹高 13m

モッコクは、東アジアの暖帯、亜熱帯に広く分布する常緑樹で、日本では千葉県以西の低地に生えています。濃い緑色の葉が茂り、姿が美しいので庭木としてよく植えられますが、その下にマンリョウやセンリョウなどの低木を植えると、「千両、万両持ちこむ(モッコク)」といい、縁起の良い組合せとされています。材質は赤味があって木理が美しく、床柱や室内装飾材として好まれています。

光教坊境内のモッコクは大人の頭くらいの高さで八方に幹が分かれ、均整のとれた美しい姿をしています。大歳神社のモッコクは、高い樹高を持ち、神聖な境内に風格を添えています。



3. 呉地^{くれち}ダム^{しづげんぐん}湿原群

●所在地 熊野町字ハグイ原呉地ダム周辺

呉地ダムは周辺をアカマツ林に囲まれた穏やかな傾斜の底の広い谷になっており、湿原が形成されやすい地形となっております。一帯に小規模な湿原が散在し、これら全体を総称して「呉地ダム湿原群」と呼んでいます。

この地域には湿原特有の植物や生物が多く見られます。サギが羽根を広げたような形の可憐な花をつけるサギソウをはじめ、昆虫を捕食する食虫植物のモウセンゴケ、ハッチョウトンボなど、多数の貴重な動・植物が観察されています。

これらの植物は学術的に貴重であるとともに、豊かな自然の宝庫として大切に保存していかなければなりません。

4. ヒイラギ [モクセイ科]



●所在地 熊野町新宮区字屯田益永雅行氏宅 ●根回 1.6m ●胸高周囲 1.6m ●樹高 7m

ヒイラギは福島県以西の各地に分布し、庭木としてよく植えられる樹木です。本町のヒイラギは樹高7mにも達し、主幹は地上1.5mでかざ状に曲がった後傾斜して伸びており、威厳と貫禄を持った枝振りが見事です。

6. タブ [クスノキ科]



●所在地 熊野町呉地区字地蔵ガ迫岸田八幡宮境内 ●根回 4.8m ●胸高周囲 3.8m ●樹高 18m

タブは日本では本州・四国・九州でほぼ一般的にみられる常緑広葉樹で、樹皮や葉は線香製造の粘結剤などに用いられます。県内では他に大木はみられず、本町のものは県下有数の大木であると思われま

5. フジ [マメ科]



●所在地 熊野町萩原区字萩原山門前社境内 ●根回 1.2m ●胸高周囲 1.1m

フジは日本特産の本木性つる植物で、本州・四国・九州に分布し、初夏にうすむらさき色の優美な花を咲かせます。門前社境内のフジは、アラカシの幹に沿ってよじ昇り、上部で隣接しているアヘマキやクヌギの樹冠部へも枝條を伸ばす大フジです。

7. エノキ [ニレ科]



●所在地 熊野町中溝区字城佐々木忠夫氏宅 ●根回 3.1m ●胸高周囲 2.9m ●樹高 25m

ほぼ日本全土で見られる落葉広葉樹で、屋敷木としてよく植えられています。小さな甘い実をつけるので、昔は子供たちが好んで食べていたといひます。また一里塚の木としても植えられ、緑濃い木陰は旅人の憩いの場でした。

熊野町指定天然記念物位置図

1. イチョウ
2. モッコク
3. 呉地ダム湿原群
4. ヒイラギ
5. フジ
6. タブ
7. エノキ



熊野の名水



清らかな水
キララ谷の清流

1. キララ（雲母）の水

●所在地 熊野町新宮区字宮ノ首

深い緑をぬって冷たい溪流が流れており、暑い夏にもせせらぎの音が心地よく響いてきます。このキララ谷の溪流の奥地では、その昔鉾山がありロウ石や金(?)を産出していたといわれます。また、ブチサンショウウオの生息も確認されました。このようないろいろな魔力を秘めたキララの水は、花崗岩と玄武岩の性質に磨かれて、ミネラル分の低いさわやかなおいしさを持った名水です。

2. 空不動



熊野町城之堀区字飛子

●所在地 熊野町字城之堀区
空不動は40、50トンはある巨岩の下から湧水が湧き出ており、不動尊が祭られています。周囲はうっそうとした杉林で、苔むした幹の間をぬってひんやりとした風が吹き抜け、聖域の雰囲気を感じさせています。

空不動の湧水は、万病に効く霊泉として古来より珍重されてきました。この水はミネラル分の低い軟水で、腐りにくいといわれる名水です。

熊野町の名水位置図

1. キララの水
2. 空不動の水
3. ゆるぎ観音の水
4. 石嶽観音の水



城跡遺跡

もの言わぬ
歴史の語り部



ほりのじょうし 1. 堀之城跡

- 所在地 熊野町城之堀区字堀ノ城
- 城郭の形態 直線状連郭式山城
- 築城の時代 中世

嵩山（城山）の南麓、集落を見下ろす位置にあり、芸藩通誌に「嵩山城の出入にてもあらんか」と紹介されています。

城郭は、本丸から南に向けて直線状に4～5の郭が並び、現在は堀切が2カ所残り、農道として利用されています。しかし、昭和の初め本丸の井戸跡を開墾で埋めてしまったことや、昭和55年に北部農道工事のため本丸を2/3削り取ってしまったのは、残念なことです。

付近には堀之池、堀、上ノ土居など、城に関係があると思われる地名や、落ち

矢、ヤヤズ等の合戦の伝説に由来する地名が多く残っており、ありし日の山城の姿をしのぶことができます。



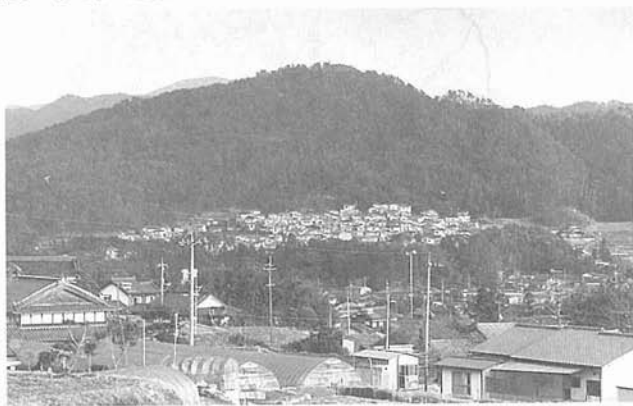
とぎじょうし とぎじょう 2. 土岐城跡（登岐城）

- 所在地 熊野町萩原区字庄賀山
- 城郭の形態 直線状連郭式山城
- 築城の時代 中世

土岐城山（418m）は熊野盆地の中心に位置するなだらかな山で、古くから要衝の地であったと思われます。またこの城山は、太古には祭祀、中世には山城、江戸期にはのろし山や雨乞いなど、地元の人たちに愛されてきたふるさとの山です。土岐城はこの山の頂上に築かれ、芸藩通誌には「土岐城、同村にあり、此城山の麓に、別に四貫分とよぶ地あり、土岐の外城なるべし」と紹介されています。城主や正確な時代などはまだ不明で、今後

の調査に期待がかけられています。

現在も、頂上の本丸跡から東北側に100mほど下ったところに、古井戸が残っており、泉がこんこんと湧き出しています。



さかきもりじょうし
4. 榊森城跡



●所在地 熊野町新宮
区字坂ノ美堂 ●築城の
時代 中世(室町時代)

町の最北端に位置する城で、本丸を中心に東西に一つつつ郭が形成され、その下に一段の帯郭が造られています。山側にあたる北面に堀切を造って防禦を固くしており、近くには井戸跡らしい遺構が残っています。

どうじょういせき
6. 道上遺跡



●所在地 熊野町萩原
区字大原 ●時代 縄文
時代

道上川南側の段丘上に広がる縄文時代の遺跡です。平成3年に試掘調査を行って、数多くの資料が出土しました。資料の中には多数の石鏝をはじめ、石錐(石のきり)など貴重なものがあります。

ひがしふくはら いせき
8. 東深原遺跡(包含地)



●所在地 熊野町新宮
区字東深原 ●時代 旧
石器時代晩期～縄文時
代創草期 ●出土品 局
部磨製石斧、磨製石斧、
凹石、磨石

昭和53年、苗木移植のため植木斜面を約50cm掘り下げた所から、偶然2個の局部磨製石器が発見されました。調査の結果、周辺一帯が石器等の包含地と分かりました。出土品は熊野町郷土資料館に展示されています。

やなぎの もと いせき
10. 柳ノ本遺跡



●所在地 熊野町平谷
区字柳ノ本

熊野トンネル近くの丘に広がる縄文時代の遺跡です。平成3年に試掘調査が行われ、黒曜石や安山岩の石鏝や剝片が多数出土し、道上遺跡とともに本格的な調査が期待されています。

し かん ぼじょうし
5. 四貫分城跡



●所在地 熊野町萩原
区里地 ●築城の時代
中世

土岐城山の南端に位置し、土岐城の外城とも考えられています。山側に2カ所の堀切を造り、西側は自然の崖を利用し、東側には多くの郭を配した堅固な防禦としています。現在は、龍王神社境内となっています。

おか いせき
7. 岡遺跡(住居跡)



●所在地 熊野町初神
区字岡 ●時代 弥生時
代後期 ●出土品 弥生
時代後期の土器片(古
式土師器、サヌカイト
石片)

昭和56年、耕作中に住居跡と土器片が発見され、昭和57年に試掘を行って、弥生時代後期の住居跡であることが確認されました。南東の丘からも土器片が採取できるため、付近に同時代の遺跡が散在すると思われます。

おおみずみなじ いせき
9. 大水南地遺跡



●所在地 熊野町出来
区字大水南地 ●時代
弥生時代中期 ●出土品
弥生式土器

現在の市街地にほど近く、南向きで隅当たりがよく水の便もよい地区にあります。弥生時代中期の土器が多数出土しているため、弥生人の生活に適した地域だったと思われる、今後、相当数の遺跡が確認されると考えられます。

ぼらいせき
11. ハグイ原遺跡



●所在地 熊野町呉地
区字ハグイ原

呉地ダムの工事を行ったとき、旧石器時代から縄文時代の初めころ使用されたと思われる有茎尖頭器が出土しました。この他、土器片などの出土の報告もあり、今後の調査に期待がかかる遺跡です。